

地域保健

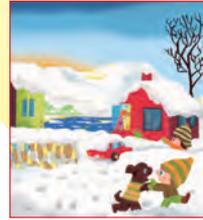
1
2019

●特集

刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか

—女子受刑者の問題を中心に





〈表紙イラスト〉
山本まもる

●
きょうは学校
お休みだし朝から
遊ぶぞー！
あつ太陽が出て
きた！

6

【特集】

刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか

～女子受刑者の問題を中心に～

8 鼎談 更生支援に求められる保健・福祉の視点



〈出席者〉

堂本暁子さん (女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事)
村木厚子さん (津田塾大学客員教授、元厚生労働事務次官)
名執雅子さん (法務省矯正局長)

26 総論 社会を映す女子刑務所 一求められる司法と福祉の連携

堂本暁子 (女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事)

32 摂食障害への対応

鈴木眞理 (政策研究大学院大学 保健管理センター)

36 性差医療の必要性

天野恵子 (一般財団法人 野中東皓会 静風荘病院)

40 刑事施設内における子の養育—子の最善の利益からの一考察

西田麻衣子 (法務省 矯正局 総務課 更生支援室)

44 結核担当保健所職員へのヒアリングから示す現状と課題

川崎涼子 (大分県立看護科学大学)

48 薬物事犯による受刑・触法経験者への対応—保健所・民間・地域生活定着支援センターとの連携可能性

大西真由美 (長崎大学大学院)

52 ルポ 栃木刑務所の現場から

編集部

56 元受刑者を地域で孤立させないために—保健師仲間の皆さまへ

栃木刑務所勤務保健師 (伊澤公恵・松本みさ子・大久保美保)

58 メッセージ 地域での居場所づくりに期待 鎌田久美子 (日本看護協会常任理事)

② ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 長田菜摘さん (穴水町役場 健康推進課)

⑥⑥ ピーブル ▶ 三宅晶子さん (株式会社ヒューマン・コメディ代表取締役)

⑦⑦ レポート1 ▶ 第77回日本公衆衛生学会総会

⑦④ レポート2 ▶ 男性保健師誕生25周年記念 第3回「全国男性保健師の集い」in 静岡

⑨⑨ 情報BOX

⑨⑥ 次号予告/奥付

連載

⑥⑦ 子どもの脳を守る 《第5回》/友田明美

⑥② 折れない心～レジリエンスの高い人、低い人
《第5回》/諸富祥彦

⑥④ ESSAY 国際保健《第29回》/松田正己

⑦⑧ 事業脳から脱却しよう! 《第5回》/佐々木亮平、岩室紳也

⑧② 保健師のための閑話ケア《第80回》/藤本裕明

⑧⑥ 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第65回》/中臣昌広



ながた・なつみ

長田菜摘さん

● 穴水町役場 健康推進課

「穴水町のなつちゃん!」と親しまれ、
みんなに愛され、信頼される保健師になりたい。



長田さんも訪問する新崎の小さな漁港。海から突き出した三角のやぐらは昔の漁法を伝える「ボラ待ちやぐら」

文=太田美由紀 (ライター) 写真=神保 誠

刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか

女子受刑者の問題を中心に

マイノリティーへの健康支援は保健師活動の中でも重要な位置を占めており、各種障害（児）者、難病患者、医療的ケア児などへの健康支援が全国各地で展開されている。しかし、受刑者に対する健康支援はこれまであまり注目されてこなかった。

現在、刑法犯検挙者の約半数は再犯者だ。2017（平成29）年12月には「再犯の防止等の推進に関する法律」に基づく「再犯防止推進計画」が閣議決定された。同計画内には、受刑者の25%を占めるといわれる高齢・障害者への支援が重点課題の一つとして盛り込まれている。受刑者が高齢、または障害のある者の場合は、体力の維持・向上のための健康運動指導や地域社会復帰後の福祉サービスに関する知識、社会適応能力の習得支援等が求められるからだ。国の再犯防止推進計画の策定から1年がたち、これから地方再犯防止推進計画の策定が求められる。

本特集では、刑務所の中で保健師が受刑者の健康支援にどのように関わってきたか、また、出所後の地域定着について対象者やその家族に保健師がどのように寄り添い、他職種と連携していけばよいのか、刑務所が置かれている現状や先駆的な取り組みも交えて紹介する。また、特に保健と関わりの深いものとして、女性特有の健康課題や母子保健の問題などもクローズアップしていく。

P8 鼎談 更生支援に求められる保健・福祉の視点



(出席者) ◎堂本暁子さん（女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事）
◎村木厚子さん（津田塾大学客員教授、元厚生労働事務次官）
◎名執雅子さん（法務省矯正局長）

P26 総論 社会を映す女子刑務所—求められる司法と福祉の連携

◎堂本暁子（女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事）

P32 摂食障害への対応

◎鈴木眞理（政策研究大学院大学 保健管理センター）

P36 性差医療の必要性

◎天野恵子（一般財団法人 野中東皓会 静風荘病院）

P40 刑事施設内における子の養育—子の最善の利益からの一考察

◎西田麻衣子（法務省 矯正局 総務課 更生支援室）

P44 結核担当保健所職員へのヒアリングから示す現状と課題

◎川崎涼子（大分県立看護科学大学）

P48 薬物事犯による受刑・触法経験者への対応

—保健所・民間・地域生活定着支援センターとの連携可能性
◎大西真由美（長崎大学大学院）

P52 ルポ 栃木刑務所の現場から ◎編集部

P56 元受刑者を地域で孤立させないために—保健師仲間の皆さまへ

◎栃木刑務所勤務保健師（伊澤公恵・松本みさ子・大久保美保）

P58 メッセージ 地域での居場所づくりに期待

◎鎌田久美子（日本看護協会常任理事）

三宅晶子

さん

●株式会社ヒューマン・コメディ 代表取締役

犯罪歴や非行歴のある人専用の求人誌で社会復帰の架け橋に

受刑者・出所者などの採用支援や教育支援に取り組んでいる三宅晶子さん。2018（平成30）年3月には、日本で初めての受刑者専用求人誌『Chance!!』を創刊。犯罪歴や非行歴のある人の社会復帰のための架け橋作りに尽力している。罪を犯した人の生きづらさの現状や、再び輝かしい未来に向かって歩み出すための課題などについて伺った。

●聞き手……………白井美樹（ライター）

—三宅さんの子ども時代から今のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

三宅 私は中学のころから非行を繰り返して、高1のときに退学になりました。人生の傾きを自覚しましたが、いつかこの経験を生かそうと漠然と思ったときでもありません。飲食店で働き始めたある日、父から1冊の本を手渡されました。それはデカルトの本。難しくて読めたものではありません。勉強すれば読めるようになるのかも——そんな気持ちから高校に入り直すことを決めました。

その後紆余曲折の末、早稲田大学の第二

文学部に合格。卒業後は、輸出入代行会社を経て、大手の情報通信系企業に10年ほど勤めました。

—なぜそこから受刑者支援の仕事をしたかと思ったのですか？

三宅 人が好きだったので、人材育成の会社で転職しようと思っていました。でも、その前に自分の経験も生かせると考え、生きづらさを抱える人や課題の多い人のことを知りたくて、自立援助ホームや受刑者支援団体などでボランティアをすることにしたのです。そんな中で、刑務所から出てき

た人が、なかなかやり直しが効かないという現状を目のあたりにしました。

—どんな状況があったのですか。

三宅 まず刑務所での作業の報奨金は、時給7円からスタートと聞いて愕然としました。これだと、刑務所を1〜2年で出てくる人は、手元に2〜3万もあればいい方です。しかも、住所が定まっていらない人は、簡易宿泊所やネットカフェなどに泊まるしかなかく、まず仕事は得られません。そのため、所持金を使い果たした後は、再び窃盗や無銭飲食などで、刑務所に戻らざるを得

特集

胎児性アルコールスペクトラム障害を防ぐ

- 胎児性アルコールスペクトラム障害の現状 ～海外とわが国の実態～
岩原千絵（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター）

- わが国における女性の飲酒の現状
金城文（鳥取大学医学部）

- 座談会 胎児性アルコールスペクトラム障害の予防と当事者支援

〈出席者〉 井上祐紀さん（横浜市南部地域療育センター）
※五十音順 今成知美さん（特定非営利活動法人アスク）＝司会
長沼 豊さん（元児童福祉施設職員）
米山奈奈子さん（秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻）

特別座談会

地域保健の未来を拓く ～厚生労働省での経験から～

〈出席者〉 黒柳佑子さん（老健局総務課認知症施策推進室）
※五十音順 菌田成央さん（子ども家庭局家庭福祉課虐待防止対策推進室）
田中志保さん（健康局健康課保健指導室）＝司会
中越瑞紀さん（健康局難病対策課）
中島千里さん（子ども家庭局母子保健課）
長谷川優さん（健康局健康課保健指導室）

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 山口朋佳さん（入間市健康福祉部地域保健課）

ピープル 藤めぐみさん（一般社団法人レインボーフォスターケア 代表理事）

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
平成31年1月号

平成31年1月1日発行/隔月（奇数月）1回1日発行
発行人 菅 国典
制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
株式会社東京法規出版
振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】 TEL 03-5977-0300
FAX 03-5977-0385
ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】 TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
◎編集長＝須賀健次
◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

バックナンバー紹介

2017年9月号

特集1「医療的ケア児を支援する」

医療的ケア児の抱える問題や国の施策について解説するほか、自治体の保健師の役割について事例を中心に紹介する。

特集2「乳幼児の予防接種へのサポート」

意外と受け忘れや誤接種が多いのが予防接種。啓発の重要性を説くとともに、自治体の取り組み事例を紹介。ロタウイルス感染症の最新情報も。

2017年11月号

座談会「第三期の特定健診・保健指導に備えるPART1」

直営で市町村国保の特定保健指導実施率の目標を達成した2市の保健師が出席。保健指導実施率を高めたと秘けつと今後の課題を聞く。

特集「多職種で取り組む災害時の食支援」

避難所で配られる食事は高齢者などには向いていないものも多々ある。災害食支援の専門家が立場からアドバイス。

2018年1月号

新春座談会1「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに保健師はどう関わるか」

保健師の関わりを中心に、地域包括ケアの本来のあり方について、精神科医と保健師が意見を交わす。

新春座談会2「第三期の特定健診・保健指導に備えるPART2 ～アウトソーシングに着目して～」

特定健診・保健指導でアウトソーシングにより効果を出すコツを話し合う。

2018年3月号

特集「子どもの貧困と健康問題」

生活困窮家庭の子どもの虫歯や肥満など健康への悪影響が出ている。現状報告とともに対策に動き出した自治体の事例などを取り上げる。

2018年5月号

特集「自殺総合対策を効果的に進めるために～自殺総合対策のポイントと実効性ある展開を目指して～」

自殺対策を効果的なものにするためのポイントと地域自殺対策推進センターの役割、既に自殺対策計画作成に着手している事例などを紹介する。

2018年7月号

特集「母子保健と虐待予防の一体的な取り組みに向けて～子育て世代包括支援センターと市区町村子ども家庭総合支援拠点～」

子育て世代包括支援センターと支援拠点の整備状況および、それらの一体的な運営に向けて動き出した先進事例を紹介する。

2018年9月号

特集「爆走するデータヘルス改革～2020年から始まるデータヘルス時代と保健師の仕事～」

2020年に本格稼働を目指すデータヘルス改革について解説。識者による「鼎談」では同改革が保健師の仕事に与える影響について展望する。

2018年11月号

特集「高齢化するひきこもり」

ひきこもりの平均年齢は年々上昇している。現状と課題、脱出に向けた各地の取り組み、保健師が担うべき役割についてまとめる。

お申し込みは

(株)東京法規出版 地域保健編集部
FAX : 03-5977-0385

※バックナンバーの価格
(2016年3月号まで) 925円(税込) + 送料151円、
(2016年5月号から) 1,480円 + 送料151円

『地域保健』購読のご案内

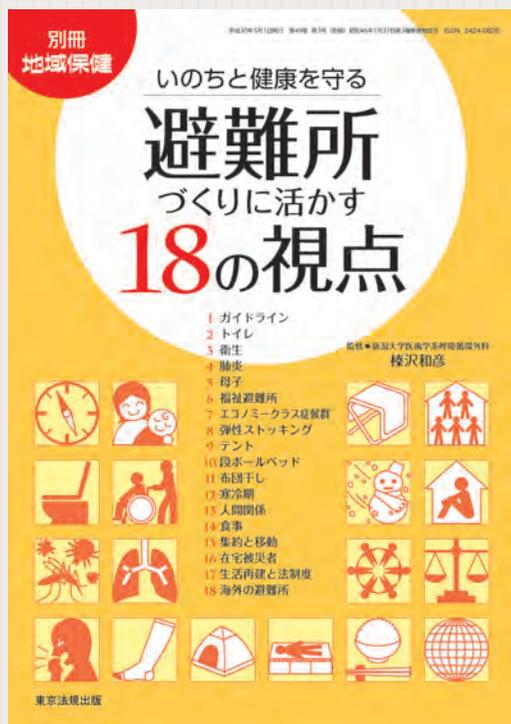
- 年6回、隔月〔奇数月〕1日発行
- B5判、総100頁(本文96頁、表紙4頁)
- 価格 1冊あたり 1,480円(税込)、送料151円
年間購読 《公費前納および個人》7,990円(税込、送料弊社負担)
年間購読 《公費後納》8,878円(税込、送料弊社負担)
※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>

災害後も健やかな人生を送るための避難所づくりの要点がわかる！
避難所運営にかかわる自治体関係者、ボランティア団体、すべての人に役立つ必携本

いのちと健康を守る 避難所づくりを活かす 18の視点



好評発売中！

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 ガイドライン | 10 段ボールベッド |
| 2 トイレ | 11 布団干し |
| 3 衛生 | 12 寒冷期 |
| 4 肺炎 | 13 人間関係 |
| 5 母子 | 14 食事 |
| 6 福祉避難所 | 15 集約と移動 |
| 7 エコノミークラス症候群 | 16 在宅被災者 |
| 8 弾性ストッキング | 17 生活再建と法制度 |
| 9 テント | 18 海外の避難所 |

監修：新潟大学医歯学系呼吸循環外科 榎沢和彦

B5判／本文96頁／モノクロ 定価：本体1,500円＋税
ISSN 2424-0826 第49巻 第3号（別冊）

災害の巨大化の中で、
避難所のあり方が厳しく問われている。
本書は、避難環境の改善と、
被災者の自立に向けての
強いメッセージになるに違いない。
神戸大学名誉教授
室崎 益輝先生 推薦

【執筆者一覧】（掲載順）敬称略

- | | | | |
|--------|---------------|-----------|---------------|
| 榎沢 和彦 | 新潟大学 | 浦野 愛 | レスキューストックヤード |
| 室崎 益輝 | 神戸大学名誉教授 | 根本 昌宏 | 日本赤十字北海道大学 |
| 田村 圭子 | 新潟大学 | 菅原 由美 | 東北大学 |
| 加藤 篤 | 日本トイレ研究所 | 辻 一郎 | 東北大学 |
| 中臣 昌広 | 日本環境衛生センター | 笠岡(岡山) 宣代 | 国立健康・栄養研究所 |
| 中久木 康一 | 東京医科歯科大学 | 植田 信策 | 石巻赤十字病院 |
| 吉田 穂波 | 神奈川県保健福祉局 | 山村 修 | 福井大学 |
| 奥田 博子 | 国立保健医療科学院 | 岡本 正 | 銀座パートナーズ法律事務所 |
| 山下 竜一 | 災害用弾性ストッキング協会 | 北川 慶子 | 聖徳大学 |
| 草島 進一 | オープンジャパン | 塩崎 賢明 | 立命館大学 |
| 水谷 嘉浩 | Jパックス株式会社 | 川村 匡由 | 武蔵野大学名誉教授 |